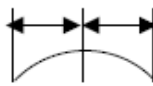
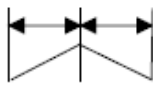


「基礎からわかる塑性加工（改訂版）」初版15～17刷用の正誤表

頁	箇所	誤	正
21	図2.4(a)タイトル	完全弾塑性体	弾完全塑性体
	図2.4(d)タイトル	完全剛塑性体	剛完全塑性体
22	下から6行目	完全弾塑性体	弾完全塑性体
		完全剛塑性体	剛完全塑性体
24	下から6行目	降伏応力	降伏応力（流動応力）
	図2.5キャプション	鋼の変形抵抗に及ぼす温度の影響概念図	鋼の降伏応力（流動応力）に及ぼす温度の影響の概略
	下から3行目	降伏応力	降伏応力（流動応力）
25	図2.6縦軸	変形抵抗 k_f	降伏応力 K_f
	図2.6キャプション	変形抵抗のひずみ速度依存性	降伏応力（流動応力）のひずみ速度依存性
	上から7行目	降伏応力	降伏応力（流動応力）
38	1, 2行目を右記に差替え	式 (3.13 a) と (3.13 b) を $\sigma_{Normal} \sim \sigma_{Tangent}$ 平面に書くと、 図3.8 が得られる。これを二次元応力場のモールの応力円と呼び、その方程式は以下のとおりに記すことができる。 $\left(\sigma_{Normal} - \frac{\sigma_{xx} + \sigma_{yy}}{2}\right)^2 + (\sigma_{Tangent})^2 = \left(\sqrt{\left(\frac{\sigma_{xx} - \sigma_{yy}}{2}\right)^2 + (\sigma_{xy})^2}\right)^2$ (3.13c)	
41	上から8行目	…公称ひずみと真ひずみ(対数ひずみ)とは一致し、…	…公称ひずみ e と真ひずみ ϵ (対数ひずみ)とは一致し、…
47	式(3.28)	$\begin{bmatrix} \sigma_{xx} - S & \sigma_{xy} \\ \sigma_{xy} & \sigma_{yy} - S \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} \cos \Phi \\ \sin \Phi \end{Bmatrix} = \begin{Bmatrix} 0 \\ 0 \end{Bmatrix}$	$\begin{bmatrix} \sigma_{xx} - S & \sigma_{xy} \\ \sigma_{xy} & \sigma_{yy} - S \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} \cos \Phi \\ \sin \Phi \end{Bmatrix} = \begin{bmatrix} \sigma_{xx} - S & \sigma_{xy} \\ \sigma_{xy} & \sigma_{yy} - S \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} n_x \\ n_y \end{Bmatrix} = \begin{Bmatrix} 0 \\ 0 \end{Bmatrix}$
51	下から1行目	この偏差応力は、後述～	この偏差応力の主軸は応力の主軸と同じ方向を向いており、後述～
59	式(3.54)の下1～4行目	ミーゼスの定数～である。	ミーゼスの定数 C_M は単軸（引張）応力状態での応力 σ から決まり、トレスカの定数 C_T はせん断降伏応力 k から定まる。 $C_M=C_T=k$ なので、せん断降伏応力 k で書けば式(3.53)と式(3.54)は一致する。すでに述べたとおり、単軸応力状態での降伏応力 Y とせん断降伏応力 k との関係はそれぞれの降伏条件で異なっている（式(3.46), (3.48)参照）ので、単軸応力状態での降伏応力 Y で書くと、それぞれの降伏条件は異なる。
82	下から1行目	完全弾塑性材	弾完全塑性体
85	上から4行目	完全剛塑性体材料	剛完全塑性体
86	4.6.3項上から8行目	完全弾塑性材	弾完全塑性体
87	上から6行目	完全弾塑性体	弾完全塑性体
88	上から5行目	完全弾塑性材	弾完全塑性体
	上から7行目		
	下から5行目		
95	下から3行目	[°K]	[K]
96	上から4行目	°K	K
99	上から10行目	せん断応力	せん断降伏応力
100	図5.10		 固着域は曲線ではなく直線
160	上から6行目	完全弾塑性体	剛完全塑性体
196	上から10行目	完全剛塑性体	剛完全塑性体
200	下から2行目	完全剛塑性体	剛完全塑性体